

## 令和3年度 第4回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和3年10月15日（金）午前10時～12時
2. 開催会場 印西市文化ホール 多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、小林宏委員、安倉史典委員、林典子委員、藤澤進委員、奥田信康委員、足立秀一委員、志村はるみ委員、坂本富彦委員（以上9名）
4. 事務局 市民活動推進課 伊藤課長、伊藤課長補佐、富田係長、伊藤、榎田株式会社アイアールエス
5. 傍聴者 1名（定員5名）
6. 会議内容 1 開会  
2 議題  
（1）（仮称）印西市地域コミュニティ基本方針骨子案について  
（2）その他  
3 閉会
7. 会議要旨

1. 開会
2. 議題

（1）（仮称）印西市地域コミュニティ基本方針骨子案について

資料に基づき、事務局より説明が行われた。

○委員長

ただいま事務局から、（仮称）「印西市地域コミュニティ基本方針」骨子案について、説明があった。ご意見、ご質問があればお願いしたい。

○委員

今回の基本方針は初めて策定されるものなのか。ベースとなるものがあれば、お示しいたきたい。

○事務局

基本方針は今回初めて策定するものであり、ベースになるものは特にない。

○委員

では、「市民」、「地域コミュニティ」はそれぞれ何を指しているのか。定義が曖昧で、全体として緩い骨子だと思う。

○事務局

今後、策定作業、施策にいかしていきたい。

○委員

昔から住まわれている方、新しく入って来た方の違いをはじめに明記しているが、最終的に

は全てまとめて対応する形になっていて、結局バラバラの施策がある。最近、地方では「企業市民」のような方も増えているので、そうしたものも含めた方がいいのではないかと考えている。

○事務局

「基本方針」については、これから市がどのような方向に行くのか、その行き先を示すものであり、個別の施策についてまでこの中で触れていくことは予定していない。「地域の多様性」に合わせた施策の展開にしたいと考えている。

○委員

もう1つ特に気になったのは、高齢化で様々な問題が既に出て来ているので、その準備をすることをこの中に明記する必要があると思う。論点をあぶり出す上で、基礎となる調査の内容、現状を把握しておかなければ、実現性が弱まるのではないかと考えている。

○委員長

「市民」の定義に関しては、市の「市民参加条例」の中で定義されているので、文言は、整合を取って整理した方がいいと思う。

○委員

方針を作る時には、将来のあるべき姿を描き、それに対応して「理念」が出て来ると思うが、あるべき姿をどのように考えているのかが幅広く市民の方に浸透しないと、持続可能なまちをつくる、というこの理念が本当に市民の方の肚に落ちるのかを考えたとき、まだ粗い印象がある。わかりやすい形にした方がいいのではないかと考えている。それと、10ページは“各主体の役割”となっているが、策定する際に「市が市民を管理する」ような内容になるのは良くない。

特に印西市の方は昔から住まわれている方、転入の方がそれぞれ多く、多様な考え方やライフスタイルを持っているので、その辺りのことをデリケートに扱い、スケジュールありきで進めるだけの仕事にならないようにしていただきたい。アンケート調査を実施しているが、調査対象の18歳以上で2,000人という根拠は何か、人口の2%程度となっているが、また、アンケート結果の中身のみで全てのことを判断していいのか？回収状況についても、慎重に確認していただきたい。

○事務局

「2,000人」の内訳については、印西市の現状年齢構成をほぼ反映している。ただし、自治会・町内会への加入率が現在の「中間集計」では「70.6%」となっており、実際の「61%」より高く、全体の市民の方の中では関心が比較的高い方が多い回答母集団となっている。その他の方の意見については、各種団体対象のアンケート調査から汲み取ることができるのではないかと考えている。

○事務局

「理念」については、市の上位計画である「総合計画」に「政策5」として落とし込まれているまちづくり方針の部分があり、「市民と行政が力を合わせる」ということを基本理念に掲げていることに拠っている。

#### ○委員

市のコミュニティの現状と課題について、全国に比べると印西市は未成熟な部分も大きく、少し特殊なのではないかと思う。開発の期間が長く継続し、その中でそれぞれの自治会が構成されているのが現状であり、人口が増えて活性化しているまちだと一般的には言われているが、“地域コミュニティ”については未成熟な部分があり、印西市の特性に応じた現状と課題の分析が重要である。今回、市民アンケートで細かく分析をしているが、防災・保健福祉の分野等、行政がどのような課題を抱えているかの分析がスタートとして必要である。行政が抱えている市の未成熟の部分を表に出していただき、その“未成熟”の中でどのような課題を抱えているのか、市民アンケートを受けてどのような方向性を持たせたらその課題が解決されると考えるのか、「方針」の中へきちんと書き込んでいっていただきたい。

#### ○事務局

印西市の大元の理念として「住みよさを実感できるまち」を掲げているので、そのために行政は何ができるのか、を考えなければならない。「方針」については、これを受けてどのように地域課題の解決を進めていくのか、をポイントにしたいと考えている。市民アンケートでもうかがっているが、ここをスタートラインにしてどのように情報を共有するかが今後の課題である。

#### ○委員

何をやるのか、「理念」から実際の具体的な展開案がよく見えない。地域の課題を共有し、“見える化”をすることなのか、具体的に想定して表現していただきたい。リアリティがあるものにして、問題点や課題をクリアにしなければ、議論のしようがない。

#### ○事務局

「印西市総合計画」等諸々の計画と連携を取りながら、「総合計画」を構成する3階層のうちの最も具体的な「実施計画」に落とし込むため、わかりやすい表現に改めていきたい。

#### ○委員

総合計画がベースにあるようだが、位置づけがわからない。構成、区割りをお示しいただくと、有用な議論になるのではないか。「地域」と言っても、最終的には個々の地域・地区を対象とした取組みを考えていくということなのか？

#### ○事務局

具体的には、「町内会等」を単位として支援を進めていきたい、と考えている。

#### ○委員

全体像がわかりにくい。事前に資料を送ってもらう際に、どのような情報を持ってこの会議に参加すればいいのかお示しいただいた方が会議に入りやすい。市の方向性、即ち何を解決するため、何の目的でこれを作るのか、見えにくく、印西市の特徴や現状を市民が把握するための方向性を示していただきたい。

また、今年度中に完成させる計画なのか。そして、地域で対話する機会を設ける考えはあるのか？

○事務局

課題については、アンケート結果等を基に出していきたいと考えている。

○委員

アンケートとパブリックコメントでは地域の本当の課題は見えないのではないかと思う。これを基に市役所が地域に出て、各地域で市民と対話を行う場をぜひつくっていただきたいと考える。

○事務局

それは、今後の施策づくりの中で考えていきたいと思う。

○事務局

地域の課題のブレイクダウンについては、地域毎・年齢別でもデータをとっている。一概にニュータウン地域と在来地域で二分されることは決してなく、ニュータウン地域の中でも高齢化が進む所、既存地域の中でも新しい住民が増えている所もある。印西市は市民当たりの町内会の数が多い市である。全てではないが、概ねの地域のデータは開示可能な状況になっているので、今後そのデータを必要に応じて利用するためにも、このアンケート結果は非常に重要な資料である。

○委員

やはり、「目的」のところははっきりしていない。例えば北海道釧路市のように、地域経済が疲弊しまちに失業者が増えたところに税金を使い雇用を増やしたり、コミュニティに出すために市民活動サークルに入れた結果、市民の健康状態が良くなり国保財政が改善した例もある。またニュータウンについては、多摩ニュータウンの先例を参考に、将来について、30年後、50年後の問題意識をはっきりさせて、それに対してどのようにコミュニティをつくるのか、検討が重要。旧市街は既に高齢化で住民の6割が高齢者であり、コミュニティが機能していない。また行政区分によるアンケート分析についても、単なる行政区分だけではなくクロス分析等詳細な分析も必要である。

○委員

「課題」をどのように収集して解決していくのか、インターネット等で全て見せて、市民全体が関わっている、という実感が持てる必要がある。

○委員

今回は基本方針の策定なので、そもそもあまり具体的なものにはならないのではないかと考える。ただし、「基本方針」としてそれが実際の活動に結び付き、活性化、アウトプットになるようなものとなる必要はあると思う。

○事務局

今後、(総合計画の)「実施計画」にわかりやすく落とし込む。

○委員

「町内会」について、回覧板の回覧や寄付金集め等、実際に町内会長をやったことがあるが面倒なところがある。今は行政情報を報せる方法はたくさんあるので、具体的に町内会に何を

してもらいたいのかがしっかりとなければ、新しい人は増えないと思う。

○事務局

当市に限らず、町内会の役員の負担が大きい、という意見がアンケート等でも示されているので、課題だと考えている。

○委員

市民の地域コミュニティへの「参加と協働」を促すことが目的の一つになると思うが、それには“自分ごと”として感じられないと、なかなか参加にはつながらない。“自分ごと”にしてもらうにはどうすればいいのか、アンケートの回答結果からの今一步の掘り下げを市としてやっていただき、暮らしの中にある本当の地域課題を見つけて言語化し、施策等に活かせれば、参加と協働が進むのではないかと思う。

○事務局

1ページの「総合計画」との関係の説明の箇所などの内容を整理してもう少しわかりやすくするとともに、それ以外にも皆さまのご意見等をいただきながら、全般的に改善したいと考えている。

○事務局

市内・市外に示す意味合いもあるが、このコロナ禍の情勢下で、“今見えないもの”に対する事業費を取るのは、なかなか難しい。そういう事もありこの「方針」は、位置付けとしては中間的なものである。「実施計画」につなげて至る前の部分が見えづらいと思われるので、可能であれば皆さんからご意見いただいた事業の方向性に導けるような「方針」にしていきたいと考えている。

○委員

基本方針の中に、課題解決のためのステップを織り込めるといいのではないかと思う。

○委員

実施計画に至る前の、“計画の必要性”を示すものも欲しいと思われる。

○委員

アンケート調査をすると、やってほしいことや問題点はたくさん出てくるが、なかなか進まないところがあるので、何か基本計画の中に要点を織り込めたらいい。

○委員

地域の課題は明確化している。「人口増・若い人が多く、自然豊か、市の財政も悪くない」ので、当市はなかなかいい現状があり、他の自治体に先駆けて先進モデルケースのような場所を示してほしいと期待している。そのような場所ができるといい。現状の良い点をさらに広げるためにどうするのかを示すのが、地域コミュニティのビジョンの大きな目的だと思う。国内外の事例を引っ張りながらアピールをした方が、市民の興味を引くのではないか。

9ページの図についても、市が支える部分、それぞれが頑張る部分、多様性を考えた方がいいのではないか。現在の図では、「これが本当にできるのか？」という疑問を感じる。

○委員

9ページの図について、今と逆に考えて、大きい枠に「地域住民」を置いた方が考えやすいのではないかと。

○委員

基本方針を策定した後に、“行動計画”のようなアクションプランを作る考えは含まれているのか？

○事務局

現時点では地域コミュニティに関する特別な「計画」を定める予定はない。先ほど述べた実施計画に今後反映させていきたいと考えている。

○委員

地域コミュニティをどのように形成するのか、を考えなければ、まちづくりの上位計画には結び付かないと考えている。アクションプランが無ければ、基本方針では全て読み取れないのではないかと。地域コミュニティを形成する上で、地域の中にリーダーが必要になるものであり、リーダーの人材育成の計画が見えなければスタートできないものと認識している。

○委員

繰り返しになるが、総合計画に対する位置付け・関連が今ひとつ理解できない。

○事務局

1ページに関しては地域コミュニティの対象、事業実施の幅を市として具体的につくり、それぞれの計画の中で連携する所を具体的に示して計画同士を繋げていきたい、と考えている。

○委員

「方針」が実施計画より後付けになるということか。

○事務局

この「方針」に基づいた実施計画をこれから作成していく、ということ。

○委員

「地域コミュニティとは」について、どの地区に何が足りていないのか、何が課題なのか、アンケート結果を分析していただきたい。コロナ禍で、健康や弱者救済も含めて、印西市の現在の課題と将来推定される課題が整理されると、説得性のある資料になると思うので、今後はそのような分析をしていただきたい。

○委員長

厳しいコロナ禍の下での「地域コミュニティ基本方針」づくりにご苦労なさっていることと推察する。印西市をどのような地域にしたい、という思いや考えがないと基本方針は作れないので、それを一緒に考えるためにこの委員会が存在することを考えると、本当は骨子案というよりは“目次案”的なものを出して、その上でこの場で意見交換をし、そこから出てきたエッセンスを入れながら骨子案を作る、というストーリーが良かったのではないかと考えている。本日の意見を基に、貴市の理想像を総合計画と齟齬のないような形で整理していただきたい。印西市は千葉県の中でも一番住み良いまちとされていて有利な位置にいますので、さらにどこを

目指すのかを明文化するのは、非常に重要なテーマである。当方針の位置づけについては整理をしていただき、総合計画の中で参考情報を提示するといいいのではないか。市の地域コミュニティの現状・構造について、どういうアクターが地域に存在するのかを整理する作業が大事である。どういう地域にどのような組織、施設があるのかを整理することが、議論をする上で必要である。我々が全体の構造を把握し、地域の人々に理解をしていただく上で整理をする必要がある。アンケートの実施に関しても、当審議会メンバーの意見をふまえた上で調査項目を入れていった方が良かったのではないかと思う。「質問票調査」方式は、回答の幅がある程度制限されてしまう。つまり質問作成者の考えの範囲内ではしか回答が出て来ないところがあり、仮説検証型の調査となっている。広く探索的に情報を収集し、地域の隠れたニーズや課題、未来像を理解しようとする、調査票による調査では限界がある。そのため、分析の課程でクロス集計等をやっていただき結果を反映させていただきたい。また、代表的な地域ではヒアリング調査の機会が必要だと思うので、そちらもご検討いただきたい。

地域コミュニティの定義について、他地域の事例も含めて検討していただき、旧住民の方と新住民の方を含めた定義を。また基本方針全体については、印西市の個性を反映させたものを作っていただきたい。あと、町内会・自治会を「地域コミュニティの核」にするのは明らかに時代遅れである。町内会、自治会に対して面倒くさいなど既に一定の嫌悪感がある中で、新たに期待をかけるのは難しいと考えている。「小規模多機能自治会」や「地域運営組織」等、違う形で地域のコミュニティ組織を再編しようという動きが出て来ているので、新しいコンセプトを入れて新しい自治組織のあり方を基本方針の中に盛り込むことが、本来であれば望ましい。町内会・自治会の最大の欠点は「世帯単位」の加入である。個人単位での加入にシフトすることで、初めて若者や女性の加入が増えると思われる。また、地域が持続可能なまちをつくるための議論をする際には、“ソーシャルキャピタル”の概念を入れておいた方がいいと考える。

「信頼と批判とネットワーク」を社会の中に取り戻すために何を考えなければならないのか、基本方針に入れられるといい。

## (2) その他

・資料「策定スケジュール」に基づき、事務局より説明が行われた。

### ○委員

「素案」は、今回の骨子案と同じ程度のボリュームなのか、それとももう少し増えるのか？

### ○事務局

完成版に近い形でお出ししたいと考えている。

### ○委員長

1月にパブリックコメントに出すので、かなり完成品に近いレベルのものになる。個人的には、その間にメールや手紙等で資料を提示していただけると、当委員会としても安心して答申が出せると考える。

## 3. 閉会